

「子育て研修会」 資料2

家庭の約束ごと

約束の印として、小指を曲げて、互いに引っかけ合うことを「指切り」といいます。子どもたちは約束を交わすとき、「指切りげんまん、うそついたら針千本飲～ます」と、約束を互いに誓い合います。

もし、約束を守らなかったら、針を千本も飲まなければなりません。実際は飲み込むことなどできませんし、そのようなことはしませんが、それほど厳罰が待っていることを覚悟しなさいという戒めを言っているものです。

子どもたちのあいだで交わされる約束ごとは、それほど深刻なものはないかもしれませんが、しかし、他人との約束は社会的なルールです。厳密に言えば契約と言えるでしょう。厳守することは単なるマナーではありません。



社会生活を円滑に営み、社会の秩序を維持していくためには、誰もがルールを守らなければなりません。その基盤となるのが友だちとのあいだで交わされる「約束」です。

各家庭にも約束ごとがあります。少し油断すると、子どもたちは約束をいとも簡単に破ってしまったり、反故にしてしまったりすることがあります。家庭で子どもとのあいだの約束ごとをきちんと守られていない場合、また名ばかりで有名無実になっている場合には、このような約束がどうして定められているのか、約束を守ることがなぜ大切なのか、その必要性について家庭で話し合ってみてはどうでしょうか。

「教育の小径」No.90 国土館大学教授「北 俊夫」

家庭での役割を

家庭は集団であり、ひとつの小さな社会といってもよいでしょう。家庭で集団生活を営むうえで大切なことは、家族の一員としての自覚をもつこと、家族が協力し合って生活すること、そして家庭の規則や約束ごとを守ることです。家庭のなかで、一人一人が役割を果たすことも必要になります。

子どもに部屋を与えている家庭もあります。家族のかかわり合いが少なくなり、人間関係が希薄になっていると指摘されています。一人一人が各部屋に入り込んでしまったり、孤独に食事をしたりすることから、「ホテル家族」などといわれたこともあります。

子どもに家族の一員としての自覚をもたせるためには、家庭での役割や仕事の仕方を分担するとよいでしょう。自分のやれることややらなければならないことを明確にさせるとともに、成長に伴って新しい役割をもたせます。ここでは、「自分のため」だけでなく、「家族のため」を意識させます。

自分の行ったことが家族のために役に立ったことに気づくことにより、自らの役割や存在価値を強く意識し、家族の一員としての自覚や誇りをもつようになります。

保護者は子どもに役割や仕事を一方的に指示するのではなく、話し合いをとおして年齢や能力に応じてできる範囲のことを決定します。

また、時期をみて成果を認め、褒めてやるのが大切です。「あなたが頑張っているお陰で、楽しい家がつくられているよ」といった言葉かけをします。自分はみんなのために役に立っているといった自己有用感をもたせるようにすることがポイントです。



「教育の小径」No.94 国土館大学教授「北 俊夫」